



2022年5月1日

第129号お知らせ版

NPO法人 響き合いネットワーク東京 SP の会

NPO Resonate Network Tokyo SP

○4月29日理事会を中野事務所で行いました。理事7名と監事2名・事務局長の12名です。総会の議案を作成し会員に意見を頂くことになりました。PCの調子が悪いので議案は郵送しましたので15日までにご返事お願いします。

○4月21日・5月12日と関東学院大学の医療面接授業に参加しました。糖尿病2型の患者で5月12日からインシュリン注射の指導を受ける役でした。(写真の許可を得ましたのでお知らせします。)



SPの控室でパジャマに着替え最後のシナリオ点検。会場は4つのベットをカーテンで仕切り、その外側で学がは待ちます。



インシュリン注射の取り扱いを説明され、自分の体実際にうってみる SP



学生がグループ討議して、SPに血糖値の測定の方法やなぜ測定しなくてはいけないのか等を説明しています。

参加SPの感想



田澤 靖子

4月21日、5月12日の2日間 関東学院大学看護学部で慢性期看護学演習に参加しました。症例は糖尿病の入院1日目、3日目の設定です。

1日目は食事療法、運動療法、薬物療法3つの血糖コントロールが大切と説明があり、3日目は食事療法と薬物療法でした。

学生さんがきれいなカラー刷りのお料理カード（裏にはカロリーが記載）を並べ患者に普段の食事を選ばせてカロリーを計算し、1日のカロリー16000を超えていると実感したり、薬物療法のインスリン注射が必要である事をグラフ等を使って説明、患者の疑問点や質問に優しく答えていただき納得.学生さんは皆良く勉強されており患者に寄り添う態度で接してくれましたので、気持ち良く楽しく患者を演じることができました。



神永貞信

糖尿病で教育入院3日目の患者役で演習に参加しました。看護師役の学生は、4人で1グループを作り、その中の一人が患者に対応し、残りの3人ともう1グループ（4人）が観察役として行われました。看護師役の学生は、3日目の患者対応とあって、退院後の自己インスリン注射の指導や血糖値測定の指導、また家庭での食事の指導をテーマにして検討してきたのではないかと、対応して感じました。そこで小生が感じたことを記しましょう。

看護師役の学生は、「一生懸命に教えよう」という雰囲気が感じられました。その教え方が、「自分の真似をしてやってください」という動作を主体にしていたことが非常に分かりやすかったのですが、患者の気持ちをあまり考えないでいたのが気になりました。と言いますのは、患者は「痛いのではないか」とか「めんどうだな」と思っていることや「食事は妻が作るから、その指導は妻に話してくれ」といった、患者の思いを聞くことなく、指導していたことが気になりました。やはり、患者に「自分で治そう」という気持ちを持たせることが、指導の効果を上げるのではないかと感じました。

また、感心したことは、観察役のグループ全員に感想を述べさせたことでした。そのためか、しっかり観察して感想を述べていました。その例をあげると、患者が「うん、うん」と聞いていると、「患者との隔たりが感じたから、患者の気持ちやよく聞いているかを、確かめながら話した方がよい」とか、またインスリンの自己注射の針が「こんなに細くて短いから、あまり痛くないよ」との説明があり、小生はその針がよく見えなかったので、机の上にあった本をバックに針の様子を見たのです。観察していた学生が、終了後に、「何のために本を持ち出したのですか」と聞いてきました。患者の細かな動作や、ちょっとしたしぐさをも観察しており、見ていて理解できないことを聞きに来たのが驚きました。

観察者にも発言させていることが、その場に参加しているという臨場感が感じられました。



石井政幸

2022年5月12日

関東学院大学看護学部 慢性期看護学学習の演習に参加しました。

役どころは、2型糖尿病で入院3日目の患者です。看護師（学生）1組4人のグループが、4組で4回の

4組で4回の演習でした。

○1回目

看護師（学生）さん、インスリン注射キットを持って入室、最初に患者さんの氏名確認後、体調の伺いがあり、体調良いと返事はしました。その後、今日はインスリン注射の打ち方を覚えていただくために、私（看護師）と一緒に行って行きましょうと言われてインスリン注射キットの説明を受けながら看護師（学生）さん同様に行いました。

気になった事は、インスリン注射の初めての指導なのか、キットの不足が有り、看護師（学生）気まずそうでした。時間内に指導しなければならない使命感がある為なのか、どこか、急ぎ過ぎたように思えました。患者さんとの応対に対しては必ず目を見て話すことができている声の高さもとても良かったです。

○2回目

看護師（学生）さん、バイタルサイン測定の器具を持って入室、最初に指名確認と体調の具合は如何ですかの問いに、昼食後なので、少し持たれ気味かもと返答すると、実は患者さんの体調が宜しければ、血糖値を下げる運動療法として、少し院内を歩いてみてはいかがかという提案ですと言われたのですが、糖尿病教室には1回は出席しているが、いまいち血糖値を下げる為の運動が理解できていないので、病室ではできないですか？と答え、看護師（学生）さんに了解を得て病室で少しの間歩きました。運動療法の指導に来た看護師（学生）さんにしてみたら不満でしょうね。運動療法の話をする前に、血圧測定・脈拍測定・動脈血酸素飽和度測定を測ってもらいましたが、測定後に、数値が知らされると思っていましたがありませんでした。不安でした、測定が終わったのであれば、数値が高くても平常でも患者さんに知らせるべきではないのでしょうか。血圧帯の装着、圧の入れ方、聴診器の測り方、パルスオキシメーターの付け方等は、とても上手でした。

○3回目

看護師（学生）さん、インスリン注射キットを持って入室、患者名確認、体調の確認等がありました。その後今日に来室の目的の説明が有り、その為の時間は大丈夫ですか？の問いに、大丈夫ですと答えます。時間が余りないのかベッドの上のサイドテーブルの上にインスリン注射キットを、置きながら今は看護師が、インスリンを注射していますが、退院のあと日常生活の中でのインスリン自己注射の方法を私（看護師）と一緒に覚えていきたいと思いますと言われてました。消毒綿・注射針・インスリンの入ったカートリッジ・使用済みの注射針を入れるBOX等の説明を受けて、私（看護師）と同じように真似をしてもらえると良いと思いますと同じように真似をしていましたが途中で注射針のキャップが外れて中の部品が出て来てビックリです、看護師（学生）さんも、慌てていました（予想外の出来事）それともう一つはカートリッジの中のインスリン液の量が沢山残っているのですが、これはあと何回打つことができるのですか聞いたところ看護師（学生）さんも返答に困り後程お知らせ致しますとの言葉がありました。薬剤療法の指導にこだわりすぎてキットの確認は出来ていたがそれぞれのキットの効能や機能などをもう少し時間をかけて確認をしたほうが良いのではないかと思います。演習とは言え時間内に与えられた業務やり遂げようとするあまりに、予想外の、出来事が起きてしまうのではと思います。

○4回目

看護師（学生）さん、大きなクッションを抱えて入室、一瞬何をやるんだろうと思いました。挨拶が終って患者名確認、体調は如何でしょうか？体調は良いと答えると、今日は運動療法の一環として血糖値を下げるためのウォーキングの方法を少し院内を歩きながら、指導したいとのことでしたが、入院前にも余りウォーキングなどしたことが無いのに急に言われても思い今は歩きたくないのでベッドの傍で出来ることはないので

すか?と聞きました。ベッドの傍での運動の方法、姿勢を正しくして歩く・腿を高く持ち上げる・腕をしっかり振り振る等を教えて貰いましたが、歩くのが苦手の患者さんの血糖値を下げる方法は他にはないのだろうかとの思いがありました。大きなクッションは何だったんだろうと気になりました。

□最後に学生の皆さんが、学習したものを一生懸命患者さんに受け止めてもらおうと思う気持ちは患者さんには伝えられていましたが、余りにも時間内に終わらせようとする気持ちが強いのか、学生さんの話し方が急いでいたように思えました、もう少しゆっくりと会話が出来るとよかったですねとも思いました。

感想

関東学院大学 糖尿病療養指導実習に参加して

村上宗隆

昨年度も同じテーマでの実習が有りましたが、今年はどうやるか、興味を持って行きました。4月21日に、教育入院初日の面接の場面を、5月12日は、入院3日目の指導する場面6月2日は入院5日目の、そろそろ退院へ向けての場面を想定しての実習です。

4月21日 入院1日目

5人1グループで、2グループがベッドの両サイドに観察者として座る。面接担当グループの中から一人看護師役で面接がスタートする。

15分の面接の後、振り返りタイムとなり、担当グループの進行役がし切って、まず看護師役が自らを振り返って話し、ついで、担当グループから一人、観察グループから一人が感想を述べて、次にSPにフィードバックを述べさせて、最後に指導の先生にまとめて頂く。

入院初日なので、病気の経過を聞いたり、糖尿病への理解の有無、どんな治療をしてきたか心配な事など、まずは患者のプロフィールを掴むことと良好なコミュニケーションを取れる環境作りに努める訳ですが、どんな目的で、どういう想定をしてくるか、興味を持ちながら横になっていると、カーテンを開けて、声かけながら入って来てスタートになる。

初めての实習なので勝手は分からない訳だが、皆さん緊張もあって、入って直ぐに声も小さく呼び掛けに続き、自己紹介して、入室の許可を求める学生が多かった。

フィードバックで

その場面を言ってあげると、そうか、それで一度の呼びかけでは答えてくれなかったんだと気付いて貰えました。そしてどうしたらいいかを、やり取りしながら考えて貰いました。

皆さん、それぞれに聞きたいことをメモしてこられて、後は個性の発揮で一つずつ順に聞いて行く学生、まずは親しくなることを優先に話が脱線しても進める学生相槌が上手で、こちらが知らず知らずに話している学生、様々でこちらもOSCEと違って何を聞かれたかを気にせず、盛り上がりたり静かだったりと楽しく面接が進み、時間が足りない状態でした。

皆さん明るく優しい感じで、話し易かったです。入院の目的を患者に自覚してもらうようにこれからの入院で病気に積極的に向き合ってもらうには、多分現役の看護師さんでも難しいとは思いますが、私も何と云えないんですが、どんな面接がいいか、楽しく明るく時間を過ごしたことが多いだけに、感じましたね。

これは、漠然としていて、簡単には答えの出ない事なのでフィードバックでも云えません。

一問一答になった学生も姪っ子みたいに賑やかだった子も、他グループの面接を見てフィードバックをさて、2回目、3日回目を楽しみにしましょう。

聞いて、頷いてくれていたのが嬉しかったです。

○5月22日(日)14時30分から中野事務所で勉強会をお行いました。



神永貞信・神永教子・石井正幸さんがロールプレイをして、新人3名に見学していただきました。



黒田由美子さん・滝島みよ子さん・田村大喜さんの新人3名がロールプレイをしました。

お知らせ

近藤さんが退院して元気になりました。検査結果待ちです。 新人の田村大喜さんをご紹介します。石井さんと貞信の誘いで当会に入ってくださいましたご近所さんです。総会はすべての議案が通りましたので、5月30日都庁に報告に参ります。

6月から月例会を開催します。

「響き合いネットワーク東京 SP の会」 会員の各位

月例会のご案内

なかなかおさまらない新型コロナのため、自粛生活がが続けておりますが皆さまいかがお過ごしでしょうか。そんな中でも私達の活動は皆様のご協力のお陰で、休みなく続けてこられました。しかし、月例研修会を開いて研修をしたり、会員相互の交流をとることがなかなか出来ませんでした。ゴールデンウィークも終わり、ここに来て少し落ち着いてきましたので、そろそろ月例研修会を再開したいと考えています。ラッキーな事に、飯田橋のボランティアセンターを二部屋取ることが出来ましたので、3蜜を避けて再開したいと思っておりますのでご案内致します。

日時 6月21日(火)10時から12時

場所 飯田橋のボランティアセンター AB 会議室

セントラルプラザビル10階

飯田橋駅徒歩1分

オスキーの勉強会参加者の体験談とオスキーのシナリオを使っ
ての
ロールプレイ

7月も下記の通り計画してます。

7月22日(金)13時30分から16時30分 AB 会議室

(今年度から月例会の交通費は会からお支払い出来る事になりました。)

6月月例プログラム

場所 飯田橋ボラセンター

月日 6月21日(火)

時間 10:00-12:00

司会 城川 知子

10:00-10:30

理事長挨拶 神永 教子

会計報告

事務局報告 森 トシ

組織部報告 三上 操

学術部報告 城川 知子

10:30-11:00

オスキー勉強会参加者の体験談 神永 貞信 田澤 靖子

11:00-11:15 休憩

11:15-12:00 ロールプレイ